

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290800030		
法人名	堀建設 株式会社		
事業所名	グループホーム 悠心彩・中西		
所在地	島根県益田市市原町イ434-1		
自己評価作成日	平成28年2月28日	評価結果市町村受理日	平成28年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=329](http://x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=329)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成28年3月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域との交流を始め7年が経過しました。当初より入居された方も年々生活能力が低下し、認知面も進行がみられ介護の必要性が高くなってきましたが、可能な限り地域との交流が継続できるよう支援させて頂いております。また、ご家族様との交流がもてる様に誕生会や行事への参加を呼びかけ、ご家族様との絆を大切に共に支え合うよう努めています。静かな環境の中で健やかに・穏やかに・こやかに毎日が送られるよう支援させて頂いております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

今年度は特に家族への発信と職員研修に力を入れて取り組んできた。家族には日頃より記録を開示し、受診後には記録をして貰うなど情報を共有しているが、さらに誕生会や行事への参加を積極的に呼びかけ関係作りを行ってきた。職員は、研修で学んだり個人目標を挙げて取り組み笑顔で支援することに努めてきた。職員同士が互いに気持ちを伝え合う「ありがとうカード」や「言いたいことカード」で代表者に意見を伝えるなど、工夫した取り組みをしている。看取りを希望する家族も多く、27年1月には医師や家族、職員が協力して初めての看取りに取り組んだ。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ誰もが見えるようにホール内に掲示してある。「健やかに・穏やかに・にこやかに」毎日のケアにつなげている。	玄関やホールに掲示し意識付けを図っている。職員は理念に沿った実践を心がけ利用者と笑顔で過ごせるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる盆踊りや文化祭・芋ほりなど地域の一員として交流している。ボランティアとの交流もあり繋がりを深めている。	盆踊りなどの地域行事への参加、敬老会には地域の高齢者を招き、保育園児との芋掘り、ボランティアとの交流など行っている。自治会の総会に出席し事業所の紹介をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者を招いたり、ボランティアの方との交流により認知症の方との関わりを深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議前にテーマを決めて内容を絞ることで意見を求めやすくしている。家族様には出席を順番にお願いしている。	小規模多機能ホームと合同で開催し利用者の状況や活動、ヒヤリハットなどを報告している。地域の行事の情報を得たり、災害や感染症対策への助言を受けサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所通信で取り組みを伝え、運営推進会議に市担当者も出席して頂く。最新情報を伝えて頂いたりアドバイスを頂き相互関係を築いている。	運営推進会議などで情報提供や助言を受け連携して取り組んでいる。今年度、市町村として介護職員の実態調査を行うことになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の方は自由に玄関より出入りができているよう開放しており、1ヶ月に1回のスタッフ研修にて身体拘束をしないケアについて勉強会を行い、職員の理解を深めている。	毎月スタッフ研修で理解を深め、気になるケアについてはみんなで話し合っている。全職員が虐待チェック表で日頃のケアを振り返っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	1ヶ月に1回のスタッフ研修にて虐待について勉強する機会を持ち、日々のケアの中でもお互いに言葉掛けなどに注意しながら業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修への参加を促し職員へ理解を深めてもらっている。またスタッフ研修でも自立支援について話し合いをもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は本人やご家族へ詳しく説明をして理解を頂き納得して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会を通じて意見交換の場を設けている。またご家族の貴重なご意見も後日スタッフに伝達している。	面会時や家族会、運営推進会議などで意見を聞き面会時には記録開示を行って積極的に状況を伝えている。今年度は特に誕生会への参加を呼びかけ家族との関係作りに取り組んできた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ研修に管理者や代表者が参加し業務の改善点について話し合っている。「言いたい事カード」の設置により直接会長へ意見を求めることができる。	代表者は個人面接を実施したり、意見箱の設置、会議への参加などを通し積極的に職員の意見を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者を優遇し、やりがいのある職場づくりを目指すとともに、給与水準の向上を図り職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修案内があれば各職員へ提示し、研修を受ける機会を確保している。希望があれば勤務調整を行い出来るだけ参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同圏域内でのスタッフ研修に参加し他施設のスタッフと意見交換(グループワーク)を行い日々のケアの質を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族の要望に対してゆっくり時間をかけてお聴きし、その都度再確認(復唱)することによって安心感をもって頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に安心頂いてサービスが受けれるようにいつでも電話対応ができる配慮をしている。またその都度、不安要因や問題点の有無についても説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に施設の雰囲気や環境を知って頂くために事前の来所や体験利用ができるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中での役割、出来る事に参加して頂きながら、お互いを支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	写真入りの近況報告を送り、ご本人の生活の場面が伝わるようメッセージを添えている。居室には家族との思い出の写真を飾り、家族との絆を大切にしながら共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の時間に制限は無く、自由に面会ができ、馴染みの方との面会もゆっくり話ができる様、居室又はホールで楽しく過ごされている。	これまでの習慣や人との関係を継続する事はだんだん困難になってきているが、思いを汲んで自宅近くまでドライブしたり、外泊や外出など家族との関係を大事にして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いを支え合い、共同生活ができる様スタッフは気配りを行っている。レクリエーションにおいてもその月の行事なども取り入れ楽しめる内容を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もいつでもご家族、入居先からの相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報とご本人の希望や意向を大切にしながらケアにあたっている。思いの伝える事のできない方にはご本人の行動、表情等確認しながら本人を理解して支援している。	どう暮らしたいかという意向の把握は難しいが、家族からの情報や、表情や行動、笑顔などから思いの把握に努め利用者の気持を理解して支援している。	センター方式の活用など、利用者の思いや行動の把握の仕方を検討し、重度化への対応の方法を探っていたきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を大切に、その人の馴染んできた生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の様子に気をつけながらご本人のペースで一日をゆっくりと過ごして頂いている。一人ひとりの心身状態を観察し情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「ご本人の暮らしシート」を活かし個別のケアに取り組んでいる。どのスタッフも担当を持ち、モニタリングを行い研修時には意見交換している。ご家族へ記録物の開示とケース記録へ意向も記入して頂いている。	利用者、家族の意向を聞き、利用者の持っている力を発揮できるように介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い利用者の現状を把握して支援している。	利用者、家族、関係者と一緒に話し合う場を持ち、協力して取り組む関係作りを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の健康状態、様子や気付きは介護記録に記入している。月一回の研修時、情報共有し必要に応じカンファレンスをし、修正の必要性に早めに気付きその方の目標を意識して日々のケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2ヶ月に1回移動理美容車に来て頂き、本人の希望によりカット・ヘアカラー・パーマをかけていただいている。またご家族の希望により外出・外泊の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域文化祭、盆踊りに参加し地域の一員として交流ができています。文化祭では作品を出展し展示物、催し物を観覧したり地域の行事を楽しむ事ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望を大切に、馴染みのかかりつけ医の受診を受けられるよう支援させて頂いている。必要時には主治医ご家族と相談の上で他の医療機関の受診も行っている。	利用者、家族の希望のかかりつけ医を継続し、受診や往診の支援をしている。受診後介護記録に記録をする家族もあり情報を共有して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と常に連絡がとれ、相談に応じている。緊急時必要時にはご家族や医師との連絡調整も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設内での生活状況について情報提供書を送付させて頂いている。また入院中に面会させて頂き、入院中の様子について可能な限り情報を頂き早期退院へ向けて支援させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの意向確認をさせて頂いている。また、健康状態に変化があればその都度ご家族に報告をさせて頂いている。不安や要望があれば個別に対応させて頂いている。	契約時に事業所の方針を伝え納得を得ている。看取りを希望する家族も多く、27年1月に初の看取りを行った。医師、家族の協力があり、職員の不安に対して管理者が細やかな指示、助言を行い全職員が協力して取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習2年に1回全職員が受講できる様に配慮している。また急変時や事故マニュアルについても見やすい場所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、出火場所により通報や消火担当の役割を決め、職員も認識している。緊急連絡網は地域の方も含めて協力して頂いている。	年2回、日中と夜間を想定した訓練を行っている。非常食を食べたり、職員が避難場所の確認を行っている。運営推進会議で取り組みに対して助言を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは早めに気づき個別対応し、その方のプライドを傷つけない様、言葉遣いに気をつけている。職員同士不適切な時や気付いた時には注意あっている。	排泄時や入浴時などにはプライバシーに配慮した対応や言葉かけをするよう気をつけている。職員は接遇の研修を行い個人目標を立てて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の声に耳を傾け思いや希望を表すことが出来る様努めている。好みの服選び、レクへの参加等、日常生活の関わり合いの中で自由な自己決定が出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その時々希望に沿ってその人らしく暮らしていく事が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	使い慣れたブラシや手鏡を置いたり、選びやすいようにタンスに並べ好みの服が選べる様に配慮している。喜ばれる方には職員が化粧をしてさしあげる事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とスタッフが一緒に盛付けや片づけをしてご本人の能力に応じた支援を行っている。季節を感じて頂ける様食材や献立を伝えたり嗜好調査を行い利用者の好きな献立にも配慮している。	昼食はデイサービスで作り、利用者の希望や持っている力に合わせ盛付けや片付け、夕食作りなど一緒に行っている。おやつ作りや好みのメニューを取り入れるなど工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は介護記録に記入し、一日の水分量が把握できるようにしている。食べる量はご本人より好みの量を希望されたり毎日栄養バランスの取れた食事ができている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の残存歯の状態に応じ、うがい歯磨き義歯の洗浄を毎食後支援している。眠前には義歯を洗浄液に浸ける支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により、一人ひとりの排泄パターンで誘導し、トイレでの排泄を促している。誘導の困難な方にも行動を共にしタイミングを見てお誘いしている。	利用者に合わせて声をかけトイレで排泄できるように支援している。トイレ以外でも排泄する人には行動を見てその時々に応じた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表により排便状況を把握し、便秘がちの方は下剤の処方があり看護師と相談しながら下剤の調整を行っている。毎日の水分補給や食前体操、散歩等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を伺いながらその時のタイミングや気分に応じて入浴して頂いている。脱衣場を適温にし個浴で好みの湯温にしリラクセスして入浴して頂いている。冬至にはゆず湯を楽しんでいただいている。	タイミングや声かけを工夫して誘い、気持ち良さを感じてもらえるように支援している。ゆず湯など楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は照明、室温等の環境を整え気持ちよく眠れるよう寝具の清潔を保っている。畳やソファ等好みの場所で休息したり、日により午睡される方には何時でも休む事ができるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬文献綴りがあり、各自どのような薬が処方されているかスタッフ一人ひとりが知ることができている。また服薬が変更になった場合にはその都度注意報告が看護師よりあり、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を理解し、食事の盛り付けや洗濯たたみ等、ご本人の力を活かした生活支援をしている。行事の楽しみやドライブ等気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた花見をドライブがてらしている。ぶどう狩り、初詣、畑での野菜の収穫等声掛けにて出かけている。	利用者全員が毎月必ず外出するように担当職員が計画を立て支援している。野菜の収穫や花植えなど声をかけできる人と一緒に行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人はお金を所持されておらず、ご家族が管理している。ご本人の希望があればご家族に相談もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族知人から年賀状や手紙があり、贈り物があればご本人の希望に応じ電話がかけられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には冷暖房が完備しており、季節や天候により室温照明の調整をしている。食堂には季節感のある壁画を飾っている。音楽鑑賞、テレビ鑑賞など居心地良く過ごせるよう工夫している。	畳スペースで横になって過ごしたりソファや長いすで自由に過ごせるようにしている。室温や音に配慮し、食事時にはテレビを消し音楽を流している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、和室、廊下にはベンチがあり、気の合う方と好みの場所で過ごして頂いている。関係性を考えて席の配慮をし馴染みの席で過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご趣味の絵画、鉢植え等を置き水やりや観賞をしている。可愛がっていた動物の写真、使い慣れた時計や好みの服等、居心地良く過ごせる様に配慮している。	花の好きな人には窓辺に沢山の鉢を置き水遣りができるようにしたり、家族の写真や時計、タンスやテーブルなど利用者や家族の思いで持参している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっている。居室前にはそれぞれの表札、風呂の目印等、利用者の目線に合わせ自立した生活が送れるよう工夫している。		